



平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年11月12日

上場会社名 21LADY株式会社 上場取引所 名
 コード番号 3346 URL http://www.21lady.com/
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)藤井 道子
 問合せ先責任者 (役職名)取締役 (氏名)北川 善裕 (TEL)03(3556)2121
 四半期報告書提出予定日 平成26年11月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第2四半期の連結業績(平成26年4月1日~平成26年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	1,477	△8.5	△14	—	△16	—	△23	—
26年3月期第2四半期	1,615	6.7	2	△65.0	1	△87.3	△5	—

(注) 包括利益 27年3月期第2四半期 △23百万円(—%) 26年3月期第2四半期 △5百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	△5.43	—
26年3月期第2四半期	△1.53	—

(注) 当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第2四半期	918	7	0.7
26年3月期	848	△22	△2.7

(参考) 自己資本 27年3月期第2四半期 6百万円 26年3月期 △23百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日~平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,292	7.3	54	—	47	—	32	—	8.13

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

新規 — 社 (社名) 、除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

27年3月期2Q	4,504,700株	26年3月期	4,434,700株
----------	------------	--------	------------

② 期末自己株式数

27年3月期2Q	—株	26年3月期	498,500株
----------	----	--------	----------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

27年3月期2Q	4,307,962株	26年3月期2Q	3,896,200株
----------	------------	----------	------------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策の効果により、一定の成長が見られた一方で、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響に加えて、物価の上昇に伴う消費者の景況感の悪化や夏場の天候不順の影響などにより、国内外を取り巻く経済環境は依然として不透明な状況で推移いたしました。

このような環境の下、当社グループは、ヒロタ、イルムス両事業におきまして、引き続き選択と集中による既存直営店強化を中心に、新商品の投入を含めた商品構成の見直し、人材教育による販売力強化及び経営改善計画の達成を目指し取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間は、売上高1,477,467千円（前年同四半期比△8.5%減）、営業損失14,643千円（前年同四半期は2,716千円の営業利益）、経常損失16,790千円（前年同四半期は1,306千円の経常利益）、四半期純損失23,379千円（前年同四半期は5,983千円の四半期純損失）となりました。

セグメント別には、次のとおりであります。

ヒロタ事業

当第2四半期連結累計期間におきましては、創立90周年を迎え、新たにフィギュアスケーター無良崇人選手がヒロタ所属になったことによるマスメディア媒体の広告や自社サイト開設等によるインターネットを活用した広告に力を注ぎました。

直営店舗におきましては、創立90周年記念の復刻版ピラミッドケーキ及びシュークリームの新発売により販売拡大を図り、また、前年に引き続き、シューアイスの販売を中心とした夏季限定直営店舗の拡大・選別により売上拡大に努めてまいりましたが、夏場の天候不順の影響により売上は減収となりました。

なお、当第2四半期連結会計期間末の直営店舗数は、38店舗となりました。

ホールセール部門におきましては、4月以降の消費税増税による売上への影響も最小限にとどまり、売上は回復基調にあります。このような中、引き続き関東・関西方面を中心に、それ以外のエリアを含めた取引先の拡大を図りました。

この結果、売上高は1,015,737千円（前年同四半期比7.6%減）、営業利益9,463千円（前年同四半期は54,460千円の営業利益）となりました。

イルムス事業

当第2四半期連結累計期間におきましては、直営店舗において販売力強化及び粗利益率の向上に努めてまいりました。また、梅田店、日本橋店ではトータルコーディネートが可能な家具及びカーペットを取扱う新たなインショップの導入を図りました。

コーポレート部門につきましては、カタログ会社であるシャディ、リンベル及びマイプレシヤスのプロモーション案件も好調に推移いたしました。これにより、営業利益は前年同四半期比で25,332千円改善いたしました。

なお、当第2四半期連結会計期間末の総店舗数は13店舗となりました。

この結果、売上高は461,730千円（前年同四半期比10.4%減）、営業損失は4,740千円（前年同四半期は30,073千円の営業損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

（資産、負債及び純資産の状況）

当第2四半期連結累計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ69,632千円増加し、918,297千円となりました。これは、流動資産が79,343千円増加、固定資産が13,350千円減少したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ39,931千円増加し、911,227千円となりました。これは主に、流動負債において未払金が20,307千円、買掛金が11,679千円増加したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ29,700千円増加し、7,069千円となりました。これは主に、自己株式（103,923千円）を全額処分したことによるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ23,395千円増加し、99,974千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの増減要因は以下のとおりであります。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、1,766千円の収入（前年同四半期は67,636千円の収入）となりました。主な内訳は、減価償却費23,563千円、未払金の増加額20,994千円であります。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、13,840千円の支出（前年同四半期は6,644千円の支出）となりました。主な内訳は、有形固定資産の取得による支出13,751千円であります。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、35,469千円の収入（前年同四半期は23,017千円の支出）となりました。主な内訳は、自己株式の処分による収入41,212千円、長期借入金の返済による支出5,436千円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成26年5月13日発表の決算短信で公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、ヒロタ事業・イルムス事業において、経営改善計画を策定し実行してまいりましたが、当第2四半期連結累計期間において、営業損失14,643千円、経常損失16,790千円、四半期純損失23,379千円を計上しております。また、前連結会計年度末時点において22,630千円の連結債務超過となり、株式会社名古屋証券取引所セントレックス市場の上場廃止基準にかかる猶予期間に入りました。しかし、平成26年5月29日付で株式会社ページワンを引受先とした第三者割当により自己株式498,500株を価額総額46,360千円で処分し、第1四半期連結会計期間末より、当該債務超過は解消しております。当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような重要事象等が存在していると認識しておりますが、この事象を解消し、又は改善するため下記の施策に取り組んでおります。

- ① 新株予約権の発行による資本増強及び不動産の流動化による財務体質への強化
- ② ヒロタ事業・イルムス事業における収益力強化

資本増強につきましては、その一環として平成26年2月14日付の取締役会において、マイルストーン・キャピタル・マネジメント株式会社を引受先とした新株予約権960,000株相当（92,160千円相当）の発行を決議したところ、第1四半期連結会計期間末までに70,000株（6,720千円相当）、そして当第2四半期連結会計期間においても40,000株（3,840千円相当）、合計110,000株（10,560千円相当）が権利行使されており、財政状態の改善及び資金調達が順調に進んでおります。これらに加え、発行済ワラントの引き受け予定先の選定が進行しており、資本増強策の推進に努めております。

また、財務体質の強化を主たる目的として、平成26年9月26日付で当社が保有する土地及び建物に関する譲渡契約を締結しており、更なる財政状態の改善及び資金調達を図っております。

収益力強化につきましては、ヒロタ事業・イルムス事業において、以下の施策を実行いたします。

ヒロタ事業

株式会社洋菓子のヒロタは、本年10月で創業90周年を迎え、これを契機にトレインチャンネル等のマスメディア媒体やインターネットでの広告に注力し、最大の強みであるシュークリーム・シューアイスの更なるブラッシュアップを図るとともに、他業種等とのコラボレーションによる新商品開発や創立90周年イベント商品開発を積極的に推進します。また、既設店舗の改装効果により、ヒロタのブランド価値を高め、売上の拡大を図り、通期の営業黒字化を目指します。

- ① 改装を含めた既設店舗の活性化・クリスマス等のイベント強化
- ② ホールセール部門の海外も含めた取引先の更なる拡大及びネットを活用した自社サイト等の売上拡大
- ③ 千葉工場における稼働率アップ及び新たな設備投資による新商品の開発

イルムス事業

北欧家具・インテリア及び生活雑貨を取り扱う株式会社イルムスジャパンは、四半期ベースで例年最大の販売高が見込まれる第3四半期に向けて、各店舗の特色を生かしたクリスマス限定商品及び秋冬商品の販売強化による売上拡大を図り、通期の営業黒字化を目指します。

- ① 主力店舗である梅田店、日本橋店の生産性の向上及び卸売部門の強化による営業利益の確保
- ② コーポレート営業の他企業とのコラボレーションによる新規案件の獲得増
- ③ 投資負担の少ない新規店舗イルムス大津の平成26年11月オープンによる売上及び利益の拡大

当社グループといたしましては、継続企業の前提に関する重要事象等が存在しておりますが、上記の各施策を確実に実行することにより、資産超過の状態が継続し、業績の改善も図られるため、資金繰り面での懸念もなく、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しておりますので、四半期連結財務諸表の注記には記載していません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	76,578	99,974
売掛金	225,002	251,154
商品及び製品	92,392	105,196
仕掛品	1,566	2,772
原材料及び貯蔵品	28,849	34,373
その他	14,134	24,127
貸倒引当金	△450	△180
流動資産合計	438,074	517,418
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	160,302	153,207
その他	130,155	129,493
有形固定資産合計	290,457	282,700
無形固定資産		
のれん	4,380	3,694
その他	29,753	27,282
無形固定資産合計	34,134	30,977
投資その他の資産		
その他	86,868	83,881
貸倒引当金	△3,908	△3,358
投資その他の資産合計	82,960	80,523
固定資産合計	407,552	394,201
繰延資産		
株式交付費	3,037	6,677
繰延資産合計	3,037	6,677
資産合計	848,665	918,297
負債の部		
流動負債		
買掛金	172,618	184,298
短期借入金	30,371	29,145
1年内返済予定の長期借入金	47,077	41,641
未払法人税等	13,966	17,272
未払金	299,958	320,265
未払費用	93,754	95,932
その他	83,820	95,426
流動負債合計	741,567	783,981
固定負債		
長期未払金	87,808	86,863
資産除去債務	28,638	27,557
その他	13,282	12,825
固定負債合計	129,728	127,245
負債合計	871,295	911,227

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	101,931	105,311
資本剰余金	495,319	441,136
利益剰余金	△516,482	△539,861
自己株式	△103,923	-
株主資本合計	△23,155	6,585
新株予約権	524	484
純資産合計	△22,630	7,069
負債純資産合計	848,665	918,297

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	1,615,261	1,477,467
売上原価	747,123	683,468
売上総利益	868,137	793,999
販売費及び一般管理費	865,421	808,643
営業利益又は営業損失(△)	2,716	△14,643
営業外収益		
受取利息	2	3
受取配当金	55	20
受取補償金	195	276
貸倒引当金戻入額	300	820
その他	281	182
営業外収益合計	834	1,301
営業外費用		
支払利息	2,222	1,737
株式交付費償却	-	1,508
その他	21	201
営業外費用合計	2,244	3,447
経常利益又は経常損失(△)	1,306	△16,790
特別損失		
貸倒引当金繰入額	682	-
特別損失合計	682	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前 四半期純損失(△)	624	△16,790
法人税、住民税及び事業税	6,895	7,046
法人税等調整額	△288	△456
法人税等合計	6,607	6,589
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△5,983	△23,379
四半期純損失(△)	△5,983	△23,379

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△5,983	△23,379
四半期包括利益	△5,983	△23,379
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△5,983	△23,379
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	624	△16,790
減価償却費	27,421	23,563
のれん償却額	686	686
差入保証金償却額	2,313	1,422
株式交付費償却	-	1,508
貸倒引当金の増減額(△は減少)	382	△820
受取利息及び受取配当金	△57	△23
支払利息	2,222	1,737
売上債権の増減額(△は増加)	△2,678	△26,152
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,578	△19,533
仕入債務の増減額(△は減少)	52,993	11,679
未払金の増減額(△は減少)	10,592	20,994
未払費用の増減額(△は減少)	△4,571	2,177
長期未払金の増減額(△は減少)	△90	△945
未払消費税等の増減額(△は減少)	△5,168	11,129
その他	△5,633	△3,431
小計	77,460	7,204
利息及び配当金の受取額	57	23
利息の支払額	△2,502	△1,720
法人税等の支払額	△7,379	△3,740
営業活動によるキャッシュ・フロー	67,636	1,766
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△3,770	△13,751
無形固定資産の取得による支出	△1,977	△287
敷金及び保証金の差入による支出	△1,384	△47
敷金及び保証金の回収による収入	488	245
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,644	△13,840
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	-	3,000
短期借入金の返済による支出	△3,510	△4,226
長期借入金の返済による支出	△8,517	△5,436
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△8,819	△5,800
新株予約権の行使による株式の発行による収入	-	6,720
自己株式の処分による収入	-	41,212
割賦債務の返済による支出	△2,171	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	△23,017	35,469
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	37,974	23,395
現金及び現金同等物の期首残高	108,859	76,578
現金及び現金同等物の四半期末残高	146,833	99,974

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成26年5月29日付で、株式会社ページワンを引受先とした第三者割当により自己株式を処分しております。この結果、当第2四半期連結累計期間において自己株式が103,923千円減少し、当第2四半期連結会計期間末において、自己株式は保有しておりません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	ヒロタ 事業	イルムス 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,099,801	515,459	1,615,261	—	1,615,261	—	1,615,261
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,099,801	515,459	1,615,261	—	1,615,261	—	1,615,261
セグメント利益又は損失 (△)	54,460	△30,073	24,387	—	24,387	△21,671	2,716

(注)1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△21,671千円は、主に報告セグメントには配分していない全社費用であり、主に持株会社である親会社に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	ヒロタ 事業	イルムス 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,015,737	461,730	1,477,467	—	1,477,467	—	1,477,467
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,015,737	461,730	1,477,467	—	1,477,467	—	1,477,467
セグメント利益又は損失 (△)	9,463	△4,740	4,722	—	4,722	△19,365	△14,643

(注)1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△19,365千円は、主に報告セグメントには配分していない全社費用であり、主に持株会社である親会社に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。